

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌ウイルス	平成29年												平成30年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月 ~7日	1月 ~14日	1月 ~21日	1月 ~28日	2月 ~4日	2月 ~11日	2月 ~18日	2月 ~25日	3月 ~4日	3月 ~11日	3月 ~18日	3月 ~25日	4月 ~1日	4月 ~8日
カンピロバクター	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	109	84	7	8	10	12	11	10	5	13	11	14	12	11	18 (19)	18
病原性大腸菌	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	73	110	14	17	14	21	15	16	6	14	10	13	19	2	16 (21)	20
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
サルモネラ	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	16	3	0	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	9	12	2	3	2	7	3	3	2	3	2	2	2	1	5 (6)	5
黄色ブドウ球菌 MRSA	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	15	16	3	1	3	5	4	3	1	3	6	3	2	2	2	3
腸炎ヒブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	3	1	0	0	0	0	2	1	3	1	3	1	0	1	0	1
ロタウイルス	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	7	4	4	5	5	6	12
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	7	21	2	4	2	5	4	2	3	4	10	5	2	0	1	2

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

* その他の1件は、アエロモナスでした。

広島県感染症発生動向週報

平成30年第14週(4月2日~4月8日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	8	結核	8		1			4	2	1
三類	0	発生なし	0							
四類	1	レジオネラ症	1			1				
五類全数	11	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1						1	
		侵袭性肺炎球菌感染症	2					1	1	
		梅毒	4					2		2
		百日咳	4					2		2

注) 西部 … 大竹市, 廿日市市, 府中町, 海田町, 熊野町, 坂町, 安芸高田市, 安芸太田町, 北広島市, 江田島市 西部東 … 竹原市, 東広島市, 大崎上島町
東部 … 三原市, 尾道市, 世羅町, 府中市, 神石高原町 北部 … 三次市, 庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第14週 4/2~4/8)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

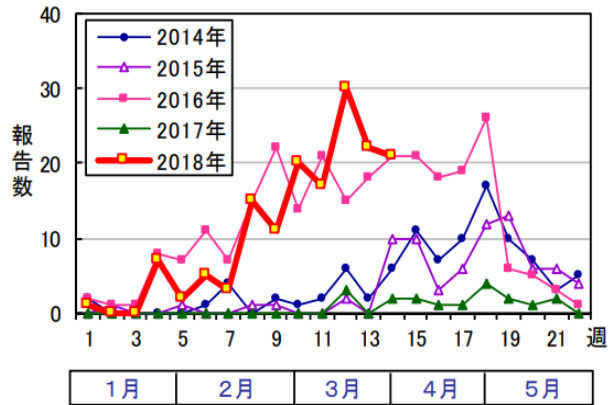
1. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)は基幹定点から21人の報告があり、多い状況が続いています。

例年、乳幼児を中心に、3月から5月頃にかけて報告数が多くなる傾向にあり、広島市では5歳未満の報告が全体の73.4%を占めています。

オムツや吐物の適切な処理、手洗いなど、感染予防対策を徹底しましょう。

基幹定点からの感染性胃腸炎(ロタウイルス)報告数



2. インフルエンザ

定点当たり1.35人と、前週と比べて減少しました。散発的に報告されていますので、引き続き、手洗いや咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号				
フィルン	インフルエンザ	50	1.35	3.13	急増減	小児科	流行性耳下腺炎	2	0.08	0.49	増減	眼科	RSウイルス感染症	8	0.33	0.08	増減
小児科	咽頭結膜熱	7	0.29	0.20	微増減	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	横ばい	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.06	急増減
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	48	2.00	1.79	横ばい		流行性角結膜炎	5	0.63	0.65	横ばい		無菌性髄膜炎	-	-	0.06	増減
	感染性胃腸炎	244	10.17	7.00	急増減	基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.08	急増減	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	急増減	
	水痘	5	0.21	0.74	横ばい		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	21	3.00	-	急増減	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	21	3.00	-	急増減	
	手足口病	1	0.04	0.32	横ばい		急増減	急増減									
	伝染性紅斑	-	-	0.22	横ばい		急増減	急増減									
	突発性発しん	9	0.38	0.51	横ばい		急増減	急増減									
	ヘルパンギーナ	1	0.04	0.09	横ばい		急増減	急増減									

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	46	女性(30歳代)・1人、男性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・2人
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	5	男性(10歳未満)
5	梅毒	2	28	男性(10歳代)・1人、女性(30歳代)・1人
5	百日咳	2	6	女性(20歳代)・1人、女性(40歳代)・1人

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱(39.0) 鼻炎	5	女	2018/03/04	鼻汁	B型インフルエンザウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載